

大阪 中之島の都市ビジョン

2005年(平成17年)12月
中之島まちみらい協議会



目次

はじめに……………1

第1章 中之島の位置付けと課題の整理

1. 中之島の大阪における位置付け……………2
2. 中之島のまちづくりにおける課題の整理……………3

第2章 整備の方向性

1. 水系の景観向上
 - ・「水都大阪」としての舟運活用計画と船着場の整備促進… 4
 - ・水と緑のなごみ空間の創造……………5
2. 開発計画の検討
 - ・都心居住の促進への仕組みづくり……………6
 - ・文化施設の早期整備促進……………7
3. 関連都市基盤整備
 - ・緑道と広場のネットワーク形成・基幹インフラの早期実現…8
 - ・周辺地区との連携強化と歩行者橋計画の具体化推進…9
 - ・中之島新線駅周辺歩行者地下ネットワークの整備…10
 - ・駅を拠点とした賑わいの創造……………11
4. まちづくりのソフト面の充実
 - ・景観整備の推進……………12
 - ・光のまちづくりの推進……………13
 - ・地域防災と地域防犯の推進……………14
 - ・環境に配慮した都市再生の推進……………15

第3章 中之島のめざすべき都市ビジョン

1. 中之島のまちづくり理念……………16
2. 中之島の都市機能ゾーニング……………17
3. 中之島まちみらいイメージ……………18



中之島地区航空写真(表紙とも朝日新聞社提供)

■中之島地区の概況

- 区域面積:約50ha
(西部地区:約35ha 東部地区:約15ha)
- 施設総面積(2005年):約100万㎡
- 利用可能容積:約190万㎡
- 昼間人口:約35,000人
- 夜間人口:約600人
- 京阪中之島新線乗降客数(予測値)
:約14万人/日

大阪市の中心都市軸「東西軸」と「南北軸」の結節点に位置する中之島は、水都再生のシンボルアイランドとして大きく進化を遂げようとしています。

国や大阪府・大阪市のご尽力により念願の中之島新線の工事も着実に進みつつあり、大阪の都市活性化にとって、新線開通を契機とした街づくりの早期推進は当地区の使命ともいえます。

このような状況の中で当地区内の地権者企業による「中之島まちみらい協議会」は独自に当地区の都市再生に向けての都市ビジョンを検討してまいりました。

この冊子は中之島の都市ビジョンについて、当協議会としてのコンセンサスのある基本方向をまとめたものであり、今後さらに具現化の方策検討を急ぎたいと考えております。

関係御当局の支援・指導を受けながら地区内の推進機運を高め、周辺各地区はもとより梅田地区・御堂筋・難波地区等とも有機的な連携を図り、地区の都市再生を推進することが、大阪の活性化に資することを祈願して止みません。

2005年(平成17年)12月

中之島まちみらい協議会

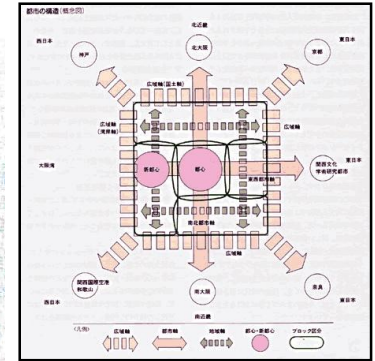
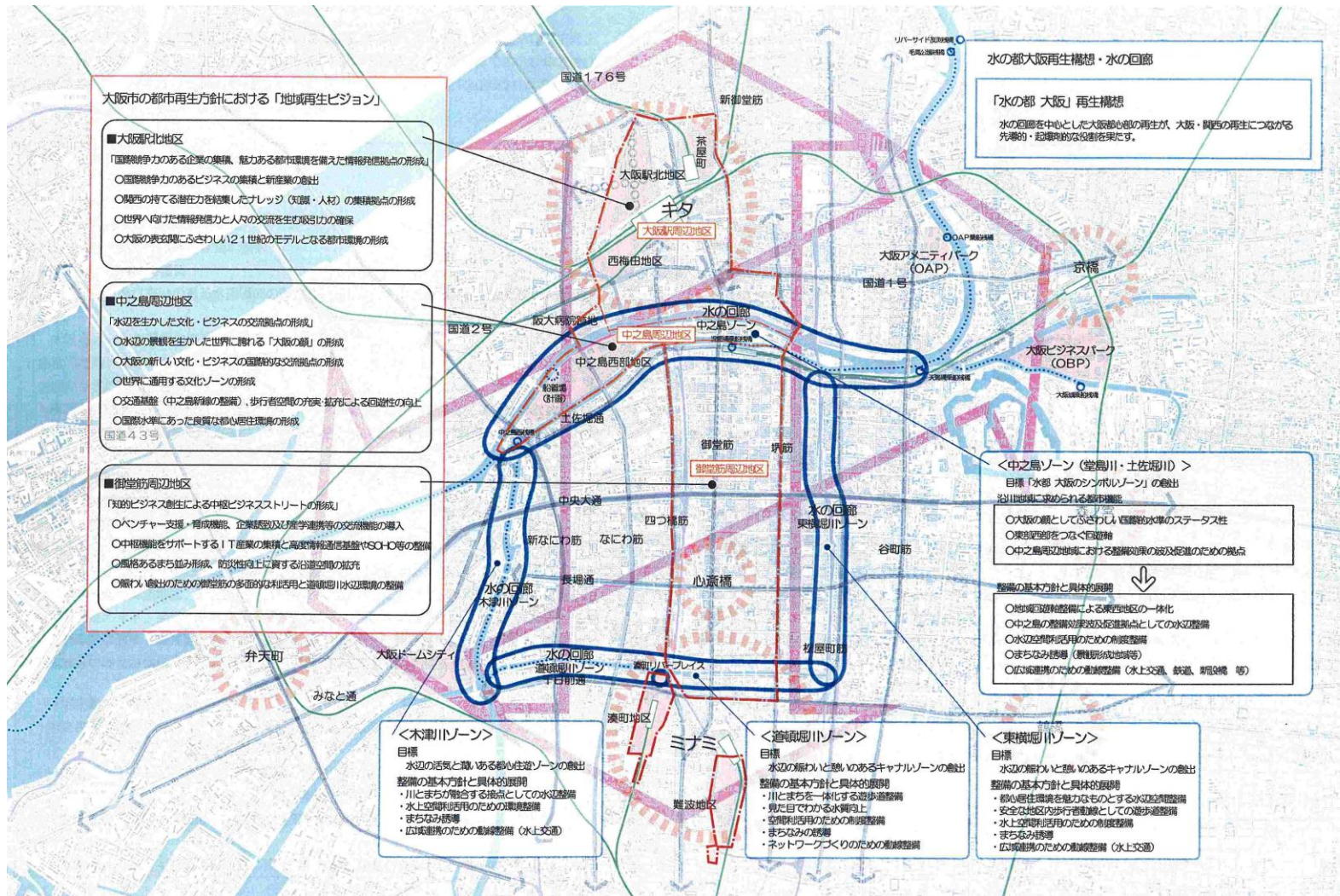
・会員企業(25社、50音順)

- 朝日新聞社
- 株式会社朝日ビルディング
- 朝日放送株式会社
- 味の素株式会社
- NTTコミュニケーションズ株式会社
- NTT都市開発株式会社
- 株式会社大阪国際会議場
- 大阪地区開発株式会社
- 関西電力株式会社
- 関電不動産株式会社
- 京阪電気鉄道株式会社
- GEリアルエステート株式会社
- 住友商事株式会社
- 住友生命保険相互会社
- 財団法人住友病院
- 住友不動産株式会社
- ダイビル株式会社
- 株式会社竹中工務店
- 東洋製罐株式会社
- 西日本電信電話株式会社
- 日本銀行
- 三井倉庫株式会社
- 三井不動産株式会社
- 三井物産株式会社
- 株式会社ロイヤルホテル

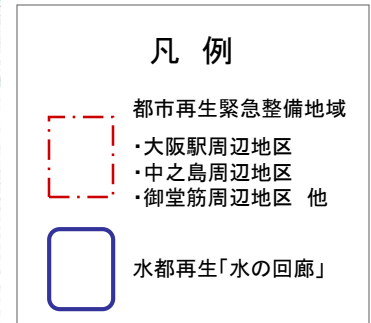
中之島の大阪における位置付け

大阪市都市再生方針、水の都大阪再生構想などの柱に位置づけられる中之島。また大阪市総合計画においては、南北軸と東西軸の結節点に位置づけられる。内閣官房都市再生本部の指定する「都市再生緊急整備地域」の中では、中之島は「水都大阪」のシンボルとして、川に囲まれた立地特性を活かしつつ、業務・文化・交流中枢拠点を形成することが整備の目標と位置付けられている。

中之島新線に沿って、東は八軒家浜から西は大阪市中央卸売市場まで、水陸交通システム、遊歩道や水や緑のネットワーク、島外の集客施設や魅力エリアとの相乗効果を図ることなどにより、東西軸の充実が必要である。



大阪市総合計画21より抜粋



中之島のまちづくりにおける課題を整理すると、地区の現況からは景観整備・高度利用上の課題、地区の位置付けからは都市基盤整備・シティプロモーションに関する課題が多い。

課題分類		テーマ	課題キーワード	具体的課題
地区の現況から	景観整備	水系の景観向上	舟運の活用による地区活性化	「水都大阪」としての舟運活用計画と船着場の整備促進
			川に囲まれた地形を生かした景観整備	水と緑のなごみ空間の創造
	高度利用	開発計画の検討	「住みたい街」「住み良い街」への開発促進	都心居住の促進への仕組みづくり
			大阪の文化振興・観光集客拠点としての開発促進	文化施設の早期整備促進
地区の位置付けから	都市基盤整備	関連都市基盤整備	地区内にサービスする鉄道の整備・延伸	中之島新線の延伸、なにわ筋線の整備
			道路・緑道ネットワークの完成	緑道と広場のネットワーク形成
				都市計画道路(南岸道路)の早期実現
			対岸地区・周辺地区との連携強化	周辺地区との連携強化と歩行者橋計画の具体化推進
			中之島新線をトリガーとする地域活性化	中之島新線駅周辺歩行者地下ネットワークの整備
	駅を拠点とした賑わいの創造			
	シティプロモーション	まちづくりのソフト面の充実	中之島の魅力の向上、居住者・来街者の満足度の向上	都市ビジョンの確立と情報発信力の強化
				景観整備の推進
				光のまちづくりの推進
			安全・安心な街としての環境保全	地域防災と地域防犯の推進
環境に配慮した都市再生の推進				

大阪は、河川沿いに主な都市機能・集客施設が集中しているという特徴があり、中之島は其中でも最もポテンシャルの高い場所である。民間舟運事業者が運行しやすいインフラ整備、水辺・船遊びの拠点づくり、水辺ファンを増やす仕組みなど、総合的に舟運活用計画を推進することが必要である。また、「花と緑・光と水の懇話会」において「水都大阪」のプロモーションが提唱され、シンボルイベントの検討も進んでいるが、その候補地としての中之島での舟運の活性化も期待される。

■陸上交通との結節機能を有する水上交通拠点の創出

水上交通ネットワークの強化に加えて、水上交通の活性化に向けても陸上交通との結節機能を有する水上交通拠点としての船着場を整備する必要がある。主要施設や各地下鉄駅前に船着場を設けることが有効である。

■様々な機関による安全な運行や船着場利活用のためのルールづくり

舟運会社による日常的航行と民間任意団体等による一時的航行、公共の船着場と民間のものを共同運営する仕組みづくりなど、様々な機関による安全な航行や船着場の利活用のためのルールづくりを行う。それらにより、新たな航路の開発や舟運ビジネスの活性化を図る。

■水都を支える集客システムの構築

- ・水都大阪ブランドの発信
「水都大阪」旅行商品の開発
様々なプロモーション活動の展開
- ・舟運を組み入れた交通システムの開発
イベント船開発、社会実験による検証
水都大阪に役立つ交通システムの整備
- ・水都大阪の案内・情報システムの整備
情報システムの開発・整備
水都大阪の魅力を高める受け入れ体制づくり
- ・水辺空間の集客拠点の創出
水辺遊歩道、オープンテラス、水上レストラン
民間集客拠点の設営、既存拠点の活用

■八軒家浜周辺地区の再生(イメージ図)



水の都大阪再生協議会(第5回)(H17.3.29)資料より抜粋

八軒家浜周辺地区再生のテーマ

- ・新たな観光集客拠点の創造
中之島の東側に歴史景観再生ゾーンとして新たな観光集客拠点を創造する。
- ・八軒家浜の再生
江戸時代には八軒の船宿や飛脚屋が軒を並べ、京都伏見と大阪を結ぶ三十石船の終着駅であり、様々な船が往来していた名所。当時の緩やかな階段状の護岸を活かし、大阪船遊びの拠点として再生。
- ・熊野古道の再生
熊野詣の出発点として平安時代から栄えた場所。第一王子の津津王子は近くの坐摩神社御旅所に合祀されており、玄関口にふさわしいつらえを工夫。



中之島の立地特性を活かすためには、平成桜の通り抜け・親水性の高いスーパー堤防・河川公園など川沿いの親水空間を創りだし、より多くの市民や来街者が川に近づきたくなる空間の整備が重要である。河川敷の管理者を中心に早期整備を図り、大阪の名所づくりを実現することが望まれる。

■桜の会・平成の通り抜け

「桜の会・平成の通り抜け」推進運動は大阪府民・市民みんなの力で毛馬、桜ノ宮から中之島一帯を中心に桜を植え、桜街道を育てていこうとするものである。

河畔の桜街道は大阪の名所づくり、舟運を生かした観光の活性化などに資するものとなるが、単に堤防に桜を植えるだけでなく、併せて河畔空間の環境を整備し、景観の美化を図ることが重要である。可能な限り水辺に近づくことが出来る親水空間づくりや、夜間照明の充実、落下防止柵の調和の取れたデザインの工夫など、重点的に環境整備を図ることが望まれる。

また、植栽も桜だけを植えるのではなく、花の美しさを際立たせる緑の背景づくりのために常緑樹(松など)との混植を図り、花と緑の「錦の帯」を河畔に形成することが望ましい。

中之島地区 平成の通り抜け(イメージ図)



■スーパー堤防

・事業概要

既成市街地および周辺地域において、河川沿川の市街地再開発と一体となって、治水安全度の向上及び地震対策の強化に加え、親水空間としての河川空間を活かした良好な市街地整備を図るため、破堤の恐れのない、幅の広い堤防(スーパー堤防)を整備する。

・スーパー堤防によるメリット

- ①治水安全度の向上
- ②親水性の高い水辺空間の創出
- ③土地の高度利用
- ④防災拠点としての活用
- ⑤建設リサイクルの推進



スーパー堤防(大阪府西大阪治水事務所)資料より抜粋

良好な環境の都市とは、通勤通学者や来街者にとって行ってみたいと思わせるのみでなく、そこに住んでみたいと思わせるものでなければならない。居住環境づくりは単にマンションを多く整備すればよいというものではない。地域の国際化に対応可能な居住者の受け皿として、様々なインフラ、生活サービス、社会参画の機会が用意され、自然発生的な地域コミュニティづくりが促されるような仕組みづくりが必要である。周辺地区も含めて、快適な居住に必要な都市機能の充実を図っていきたい。

安全に生活できる

- ・自然災害への準備
- ・犯罪や交通事故が起こりにくい工夫



自然と水とふれあえる

- ・緑陰、花、水
- ・屋上庭園、ビオトープ
- ・季節感の演出
- ・陸と水の一体感、水辺を近くに感じられる・水に出れる仕掛け、親水護岸



買物や飲食が便利である

- ・生鮮品、日用品や飲食店の充実
- ・多様な生活スタイル・時間帯に応じた24時間対応のサービス



歩くのが楽しめる

- ・水際の遊歩道、水辺からの景観
- ・ヒューマンスケール感、見る・見られるいい関係
- ・境界性の演出、ちょっと足を止めたくなるしかけ



様々な顔がある

- ・パブリックな空間、仮設装置のエネルギー
- ・マーケット、イベント、建物からまちに開いたレストラン
- ・朝、昼、夜、それぞれの都市の顔



質の高い住宅がある

- ・水辺や眺望へのこだわり、デザインへのこだわり、質の高い住宅
- ・ステイタスの感じられる住まい、文化環境



教育や子育てがしやすい

- ・小学校通学エリアについての柔軟な対応
- ・外国人子弟のための学校などの充実
- ・子育てについての相談できる相手や場所の存在
- ・保育所・幼稚園の近接性



福祉や介護がしやすい

- ・いざというときに連絡できる知人、親戚が近くにいる
- ・介護事業者の存在
- ・福祉施設、医療施設の近接性



移動がスムーズである

- ・公共交通の充実
- ・歩行者道、自転車道のネットワーク
- ・徒歩圏内に各種機能が集積



歴史が感じられる

- ・歴史的構造物、建築物、自然、物語などが存在
- ・過去の物語が現在においても体験できるしかけ



文化・芸術に触れられる

- ・アートを通じた交流、新たなものが生まれる場
- ・各種文化・芸術活動と呼ぶスペース
- ・美術館などの文化施設の立地、プログラムの充実



活動の選択肢が多い

- ・気軽に都市の各種サービスが選択できるゆとり
- ・海外や他地域からの居住者・来街者、異文化交流機会の存在
- ・周辺に特徴のある市街地が隣接



中之島は大阪の文化のシンボル地区であり、文化振興の拠点と位置付けられている。その中で国際的な観光拠点となるべき文化センターゾーンの早期整備は地区全体のまちづくりの中心課題となっている。

大阪市立近代美術館などの阪大跡地における早期整備への提言

中之島にとって、近代美術館などの事業の遅れは地区活性化のための大きな問題である。

阪大跡地に文化施設を整備し、国際的な観光集客の中心地域とすることが、地域の発展の上でも効果の高い社会資本整備と考えられ、計画地での近代美術館などの早期実現化を関係当局に要請したい。

■中之島4丁目・近代美術館建設についての事業手法の考え方

① 規模

規模については、これまでの計画を大幅に縮小することが可能と考えられる。常設展を中心とし、企画展については隣接の国立国際美術館と協同の活動や天王寺美術館との連携を前提として考える。中之島文化センターゾーンの基本的なあり方として、ひとつの『美術園』の中に国立館と市立館が協同で事業をしていくという形が望ましい。

② 建設費

建設単価は民間の一般展示施設並に設定することが可能。PFI等の事業手法で民間に建設・運営を委ねることが望ましく、その場合は事業採算上、公立美術館といえども民間施設並みの建設単価を適用すべき。これにより建設単価でも計画予算を大幅に縮小できる。規模の縮小とかね合わせると当初予算の3割程度で美術館建設が可能と想定される。

③ 事業手法

PFI手法を適用し、学芸分野以外の維持管理業務、飲食・物販事業、美術分野と相補的な催事事業などは民間ノウハウを活用して運営することが効果的である。駐車場や広場に関しては美術館事業のみで整備するのではなく、大阪市地域防災計画に位置づけた防災広場整備事業と合併施行するなど、市政としての総合的な解決が望ましい。

④ 運営

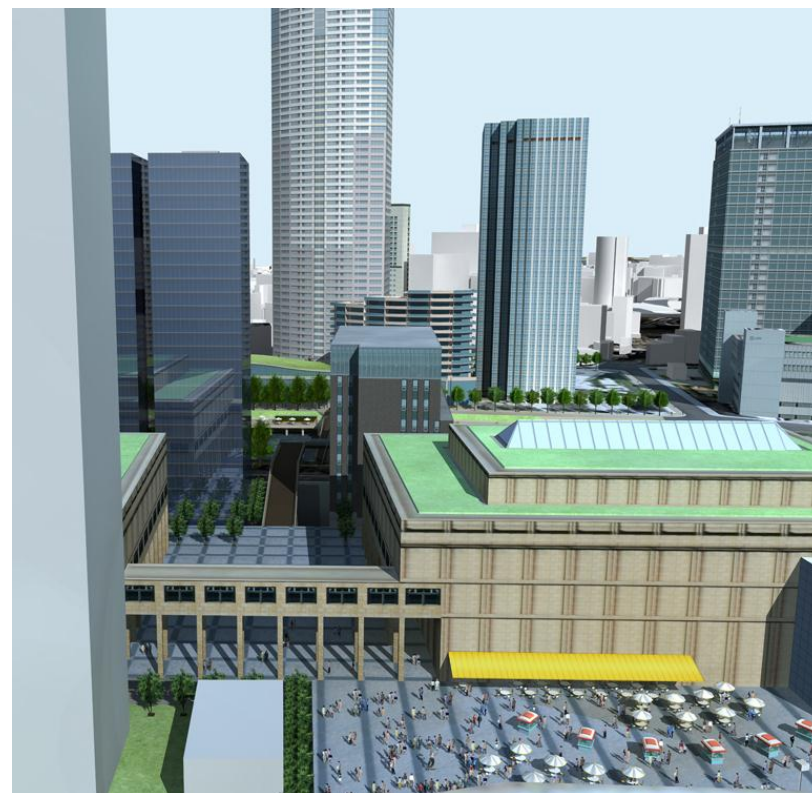
運営は、民間集客施設並みの体制を採り、来館者のサービスに努める事が重要である。国立国際美術館との共通チケットを販売するなど、国立館側と運営の協同化を図り、文化事業の大型化により集客へのスケールメリットを図るべきであろう。開館時間は一般の公立美術館と一線を画し、平日も夜間開館をすることが望まれる。

■中之島文化センターの核となる広場計画の考え方

3つの広場による構成及び各広場の特徴づけ

- ・中央広場...文化センターの中心としての象徴的広場、集客イベントスペース
- ・南広場...ミュージアムへのエントランス的空間、芸術文化と賑わいの広場
- ・西プロムナード...緑豊かなミュージアムショップストリート

※広場全体を人工地盤として、広域避難広場の役割を兼ねる

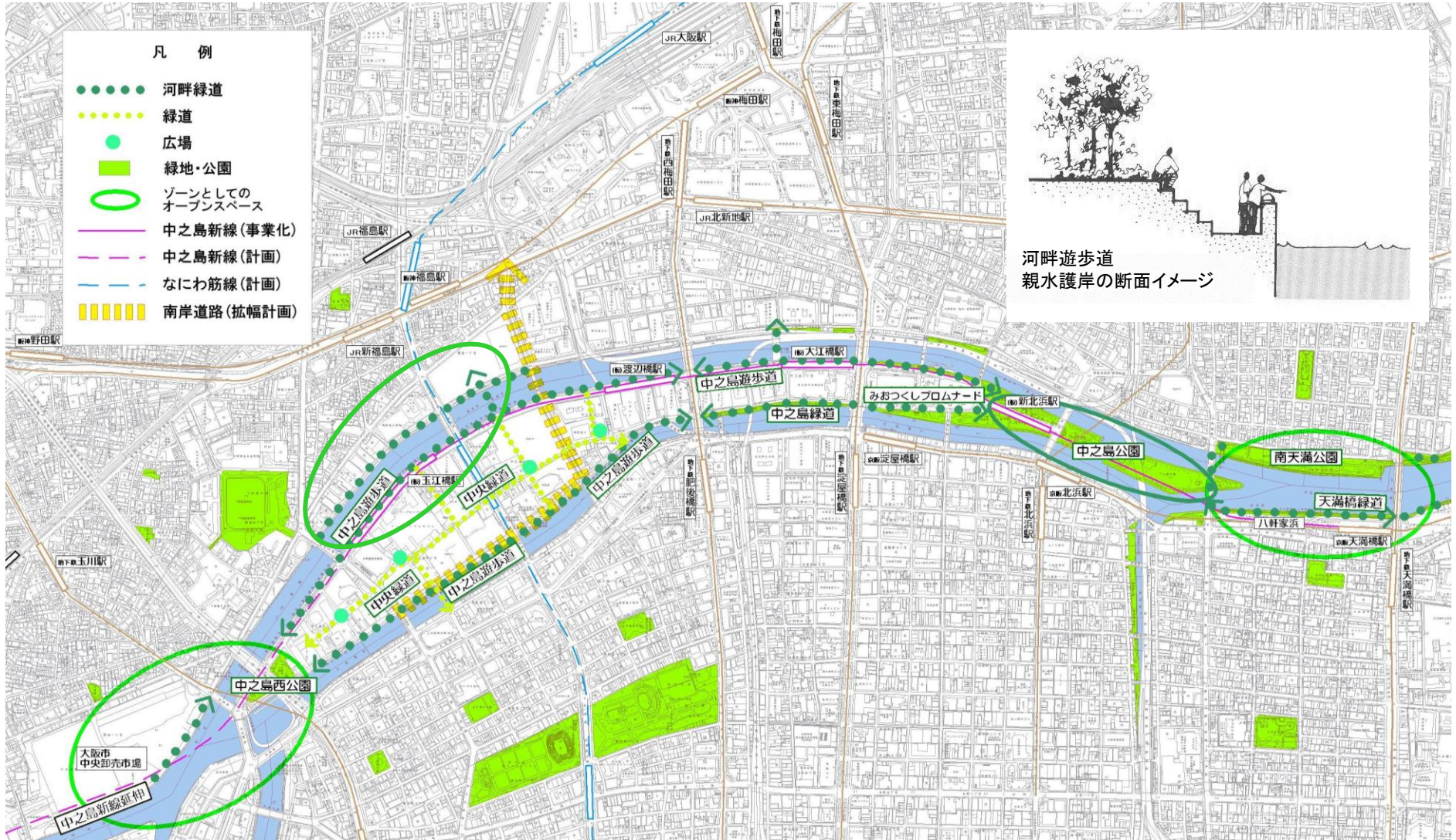


中之島文化センターゾーンの整備促進(イメージ図)

緑道と広場のネットワーク形成・基幹インフラの早期実現

中之島の東端ゾーンの八軒家浜から大阪市中央卸売市場を緑道で結び、歩行者ネットワークを形成する。南天満公園、中之島公園、中之島西公園をはじめ、南北河岸の歩行者専用道2本と中之島西部地区における中央緑道を歩行者ネットワークの骨格とし、さらに中之島を南北方向に横断する緑道とこれらの結節点に広場を配置し回遊性を高める。中之島新線の完工に伴い復旧される護岸部分での河畔遊歩道は、親水性の高い、安全かつ快適な水辺空間としての景観整備が強く望まれる。

中之島西部地区の南岸道路については、現状の中之島通りのみ片側2車線では交通容量が不足しているため、4車線道路として拡幅すべく、都市計画道路としての早期事業化を要望したい。中之島新線の延伸については、新桜島までの6.7kmの計画が答申されており、東西軸の強化に資する路線となる。また、なにわ筋線(10.2km)は同様に答申路線として玉江橋から北は新大阪、南はJR難波駅・南海汐見橋駅へ繋がり、南北軸の強化路線となる。



周辺地区との連携強化と歩行者橋計画の具体化推進

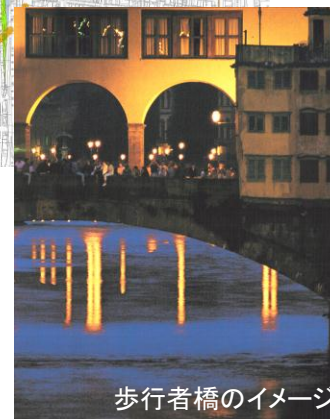
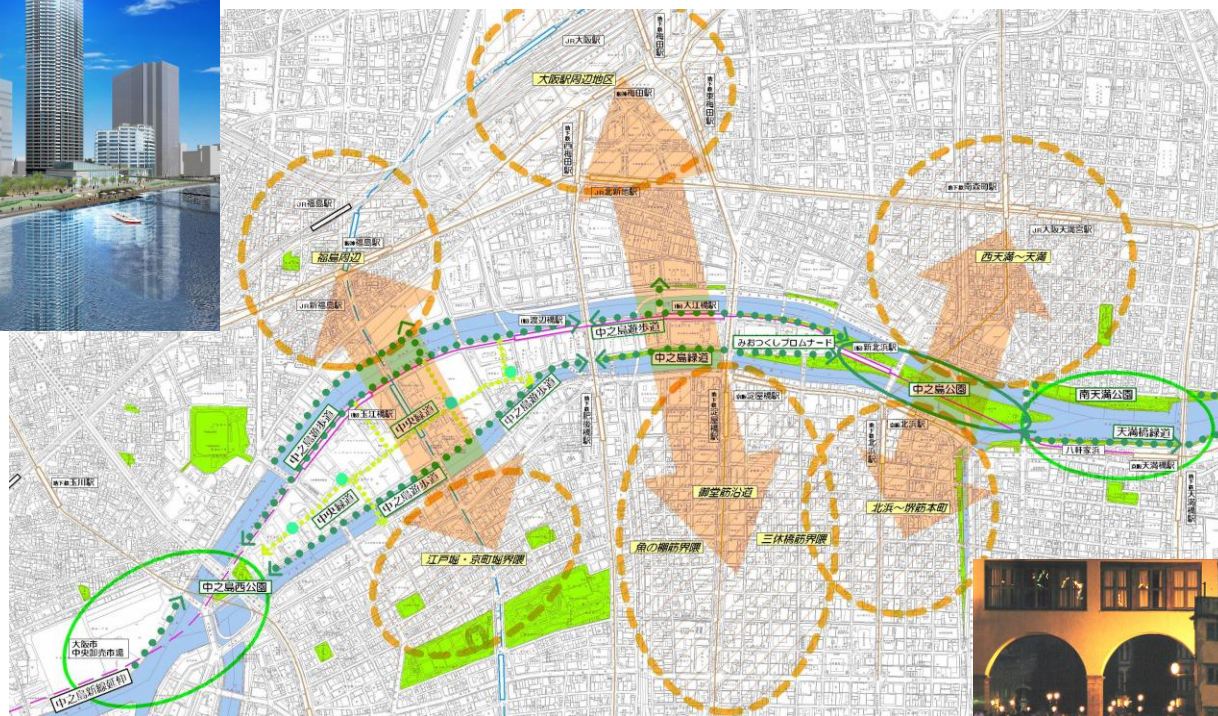
中之島の川を隔てた対岸には、様々な個性のある市街地が広がっている。島内ネットワークに加え島外との連携を強化することは、交流づくりや災害に強いまちづくりへとつながる。

中之島の歩行者橋計画は文化センターゾーンと阪大病院跡地に計画されている再開発エリアなど堂島川対岸地域との一体的発展に資するものであり、関係当局による整備主体の実現化に向けた検討に期待するものである。

中之島・周辺地区との連携(歩行者ネットワーク)



福島一丁目地区
プロジェクト



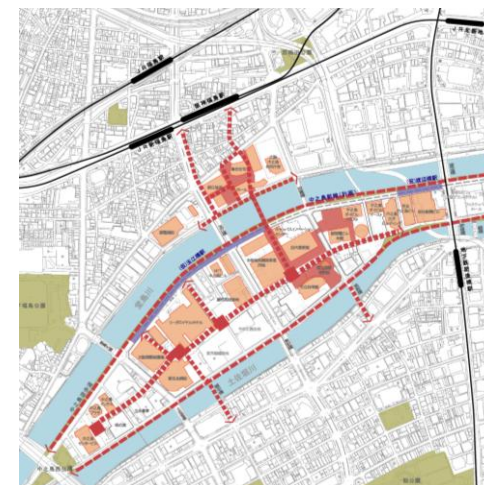
歩行者橋のイメージ

中之島エリアでは、広大な街区に伴う歩行者の利便性を高めるために、

1) 街区中央に連続して歩道を設けること
2) 川沿いの遊歩道とスムーズに連結することが、大阪市の諮問機関において位置付けられている。中之島の歩行者橋はその一環を担いつつ、阪大病院跡地と連携して、

- 1) JR、阪神、京阪の各駅をつなぎ、
- 2) 美術館、ホール等文化施設をつなぎ、
- 3) 賑わい(店舗)と潤い(水・緑)をつなぐことが設置の目的となる。

更に、中之島は大阪市の広域避難場所なので、福島エリアから中之島への防災避難路との考え方もできる。

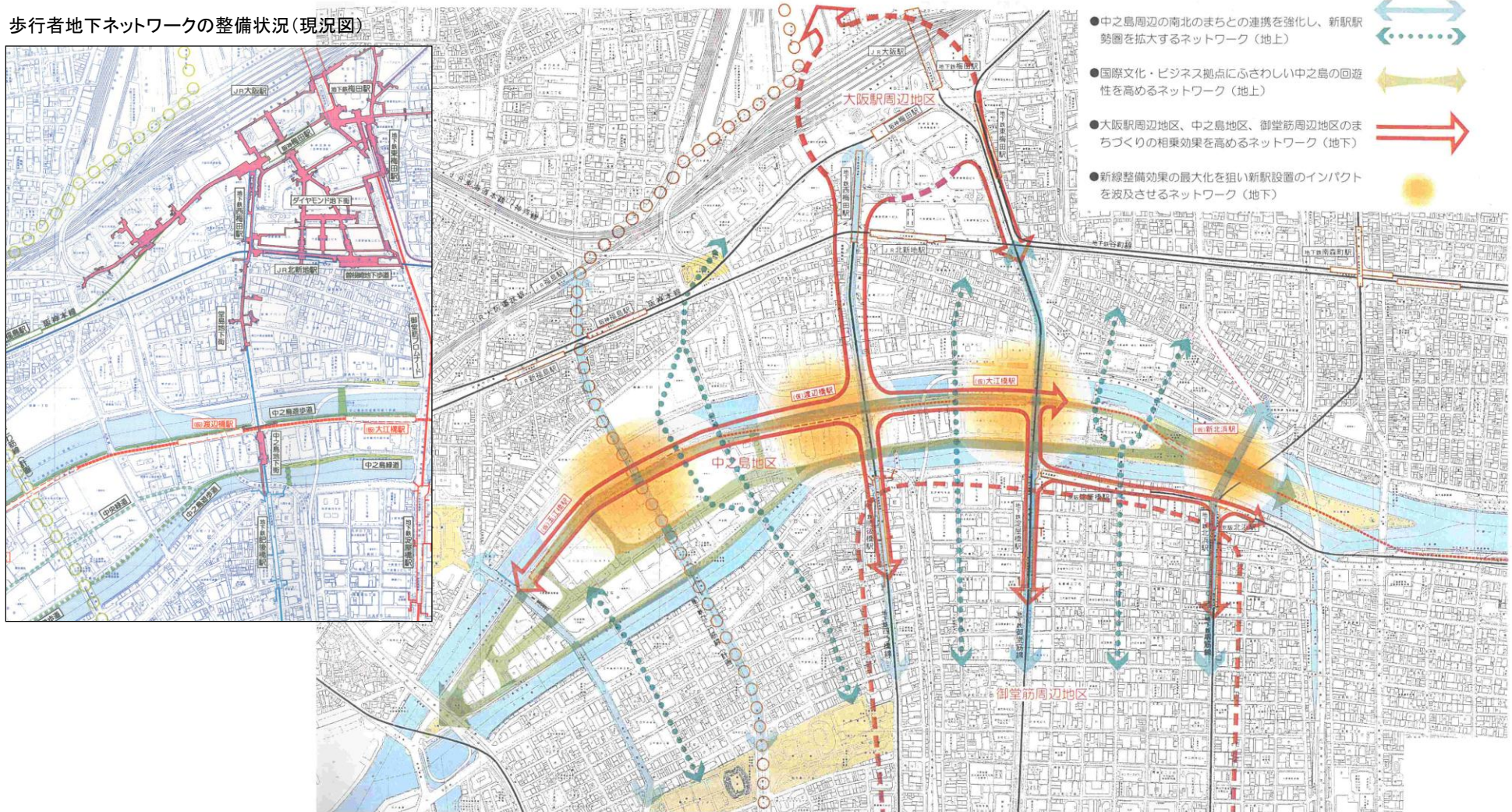


中之島新線駅周辺歩行者地下ネットワークの整備

中之島新線駅の地下歩行者空間に賑わいを持たせ、歩いてみたい魅力的な空間を整備する。同時に防犯の効果も期待する。

「中之島地区における地下空間ネットワーク等整備計画調査委員会」等での議論を踏まえ、新たな民間開発との接続、梅田や堂島などの既存地下街との接続を行い、島内のみでなく周辺地域との地下ネットワークを形成すべく、事業関係者に強く要望したい。

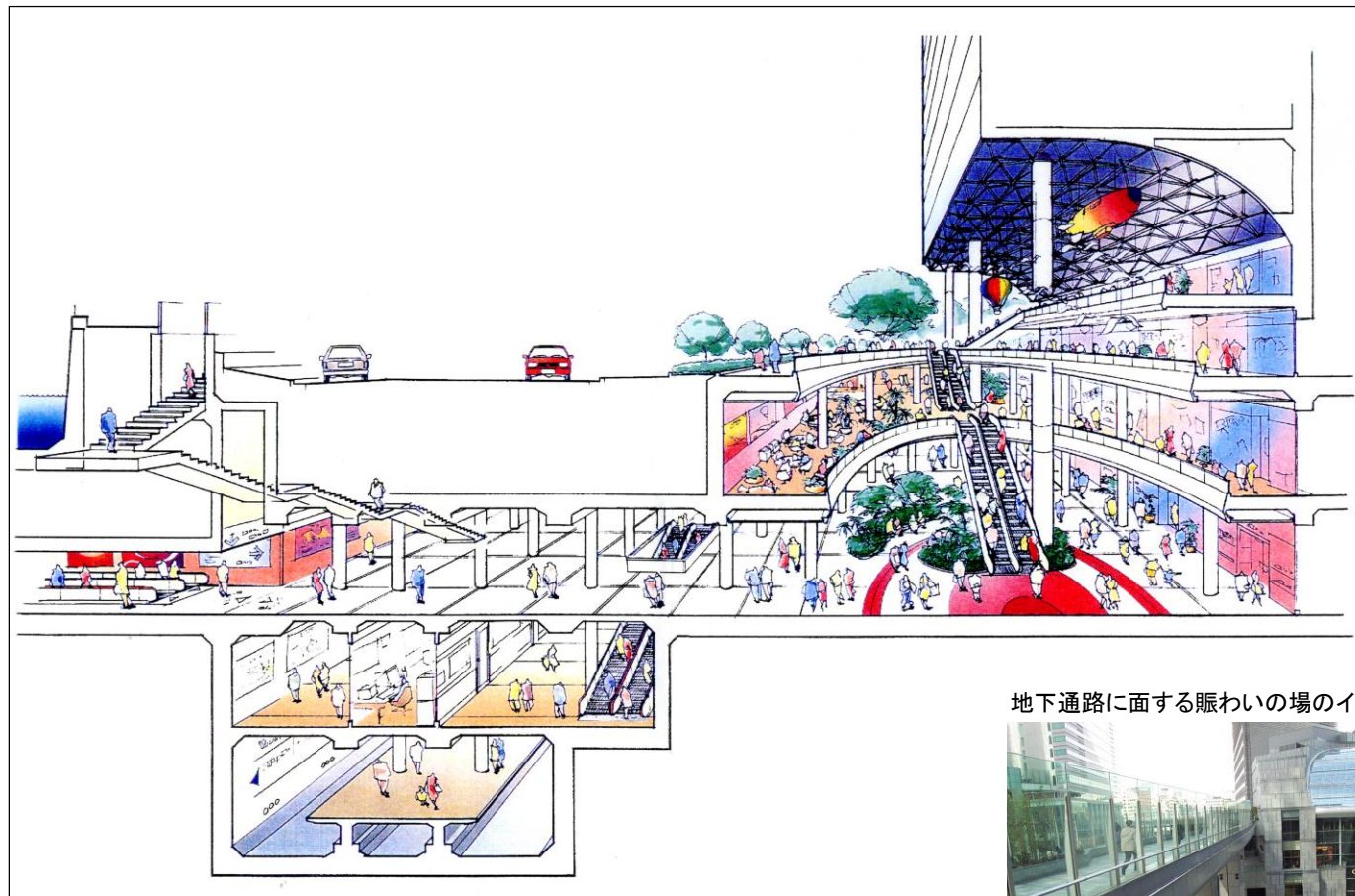
歩行者地下ネットワークの整備状況(現況図)



中之島新線の駅及び通路を中之島の顔と考え、拠点として活用し、賑わいを創造する。

健全で安全な環境をつくるため、防犯の面からも単なる通路ではなく商業空間、人が出会う空間をデザインし、賑わいを創出することが有効となる。地下ネットワークが賑わいの軸として構成されるよう、事業関係者の具体化推進を期待したい。

中之島新線駅周辺のイメージ



中之島活性化方策の提案(H14.10.30)資料より抜粋

賑わいのある地下通路イメージ



地下通路に面する賑わいの場のイメージ



街の景観は、民間地権者の自助努力により、長い時間をかけて形成される。特に、以下のような項目について、街の将来イメージを関係者により共有し、民間建物の壁面や低層部のしつらえ、周辺建物や川沿いの歩行者空間ネットワーク、安全安心なソフトなどの工夫を、継続的に行っていくことが重要である。当協議会においても「中之島スタイル」としての景観イメージの共有を図っていききたい。また、景観法による景観地区の検討も必要である。

中之島の景観整備「The NAKANOSHIMA Style」具体イメージ

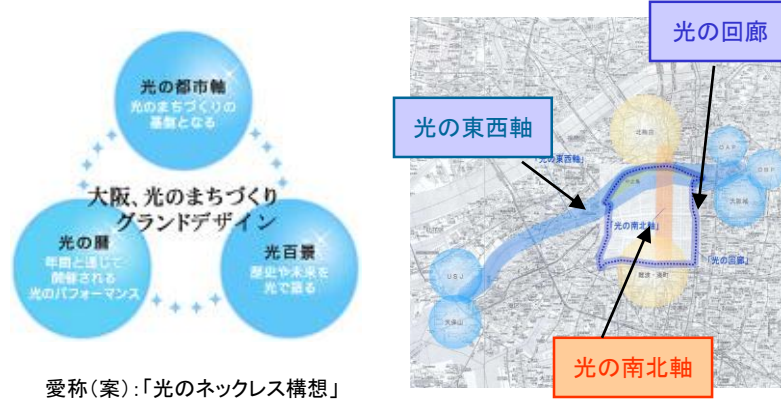
	キーワード	解説	イメージ写真
全体像	①歩行者優先	自動車の利便に配慮しつつ、歩行者動線の安全性と快適性に積極的に配慮する。	
	②水と緑	水と緑にあふれた大阪都心のオアシスとなるよう整備する。	
	③まちの一体感	「デザインの緩やかな調整」や「まちの中心の確保」などにより、まちの一体感を創造する。	
外構	④プロムナード	街の中心となる通りをプロムナードと位置付け、常に人々で賑わう豊かな歩行者空間とする。	
	⑤ポケットパーク	落ち着きのあるポケットパークをまちの随所に用意する。	
	⑥散歩道	全ての街区を回遊できる散歩道を作るよう努める。	
	⑦サイン類の整備	多国籍化に対応し、またデザイン的に調和のとれたサインの充実・整備を図る。	
	⑧まちのセキュリティ	外構デザインの工夫や保安活動などにより、まち全体のセキュリティを高める。	
建物	⑨開かれた低層部	カフェ、小広場、店舗、ショールームなど、低層部が開かれた施設となるよう配慮する。	

「花と緑・光と水懇話会」のもとで推進中の「光のまちづくり」はライトアップによって国際集客都市・大阪を活性化しようとするものであるが、中之島はその中核を成すゾーンにあり、御堂筋や梅田地区と連携して大阪都心部に固有の夜景の美しさをシンボライズすべき地区である。

中之島の特色である水を生かしたライティングやイベントとの運動により、この地区を光のまちづくりの推進拠点としていくべきである。

光のグランドデザイン

光の都市軸、光の暦、光百景という3つの光を中心に、大阪独自の光のまちづくりを实践



中之島のライトアップ



中央公会堂



国立国際美術館



中之島三井ビルディング



大阪国際会議場

光の都市軸(東西軸)



市役所と中之島公会堂周辺



水晶橋

- ・水を生かしたライティングの推進
- ・中之島にかかる主要な橋や護岸をライトアップ。
- 大阪の中心にふさわしい品格ある夜間景観を演出する。

〔 水晶橋、ガーデンブリッジ、梅檀木橋は検討中
・大江橋、淀屋橋についても推進したい。 〕

光の暦(大阪・光のルネサンス2003.12より実施)



光のプロムナード



ウォールハルストリー(中之島図書館)

- ・中央公会堂などレトロ建築の存在する中之島 東部を中心に、冬のライトアップを演出。
- ・新しい照明手法を採用する等他都市にはないインパクトと話題性を与える。
- ・周辺のビルも窓や頂部のライトアップ等で協力。
- ・大阪の光の代表的イベントに育てて行く。

光百景

- 新たに創設する「光百景アワード」(夜景写真コンテスト)とリンクした「100枚の光の絵はがき」
- ・市民のこだわりの夜景ビューポイント
- ・魅力ある光のネットワーク形成
- ・「光の語り部」としての大阪あかりの文化
- 「光のまちづくりホームページ」へのアップデートなどによる情報発信



「100枚の光の絵はがき」イメージ

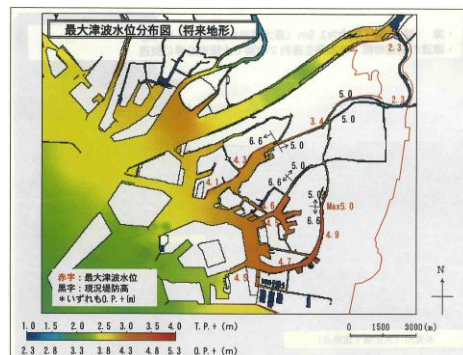
成熟化した都市の最も重要な課題のひとつに防災と防犯があげられる。防災については、東南海地震や台風などの自然災害への対応、火災やテロなどの人災への対応が求められるが、現状と課題を正確に認識した上で、ハードの整備とともに日常時からのお互いの信頼関係や早期対応へのプログラムの準備が有効となる。防犯についても警察に頼るのみでなく、地区内関係者が一体となりハードのデザインや管理体制の強化などに取り組むよう推進していきたい。また、不法路上滞在者対策は中之島地区にとって大きな課題となっており、関係当局に強く要請したい。

■地域防災力の向上

・地震対策

東南海地震や直下型地震などによる大阪圏の地震被害は、日本の社会・経済全体に深刻な打撃を与えることが明らかであり、想定される大地震を地域社会の備えによって少しでも“減災”することが重要となる。

東南海・南海地震に伴う津波
平成15年度実施の津波シミュレーション結果より



・防災まちづくりの推進

想定される災害に対して、“減災”社会を実現するためには、自助・共助・公助の三本の柱を強化することが必要である。

防災まちづくりはこのうち「共助」についての強化を目指した活動を推進しようとするものである。阪神・淡路大震災でも実証されたように、大災害時は公助は期待できないため、自助で不可能な部分は共助によって補い、救助・復旧するいことが余儀なくされる。

中之島地区においても地元組織の中で平時から防災体制の組織化を図り、災害復旧等のリーダーシップを発揮できる人材を育成することが必要である。

■地域防犯の推進

・中之島における地域防犯の課題と対策

中之島は2008年サミットの候補地として検討されており、地域の安全確保はそのための必要条件となっている。一方で、以前から不法路上滞在者が多く防犯上の大きな課題となっており、また地区内企業を標的にしたデモもあり、爆破物などによるテロの恐れもある。

サミットに向けては、最新テクノロジーを生かした定点監視システムを街全体に設置し、安全性を常に確認する等、先進的な対策も検討を要する。

護岸及び河畔遊歩道計画の中に不法滞在しにくいデザインの導入、夜間の遊歩道のライトアップ、地下道の賑わいづくりや無目的なよどみ空間の排除などが必要である。

地域ぐるみ、官民一体となって防犯意識を高め、それぞれの管理区分内の防犯に各施設管理者が責任を果たすことが原則となるが、特に遊歩道や地下道など公共空間部分での施設管理者の防犯体制強化が求められる。

不法路上滞在者対策としては自治体の予算面の対応を強く要請したい。

■企業の危機管理能力の向上

・業務継続計画(BCP-BusinessContinuityPlan)の普及

BCPはアメリカ同時多発テロ後に生まれた概念であり、近年企業のリスク管理のキーワードになっている。地震などの自然災害やテロなどによって企業の事業が中断した場合にできるだけ短期間で重要な機能を再開できるように備える計画である。

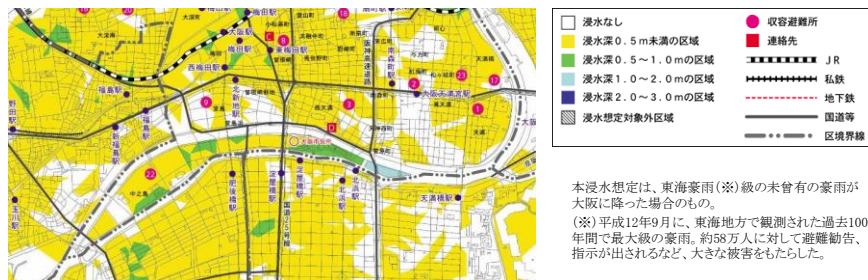
中之島地区においても、発生の確率の高いと想定される災害に対して、地区内企業各社が十分なBCPを整備しておくことが急務である。

・水害対策

大阪市による集中豪雨による浸水マップ、近畿地方整備局による淀川破堤浸水マップによると、中之島地区は全体が浸水すると想定されている。

それにもかかわらず、中之島地区は大阪市の広域避難場所に指定されており、同じ大阪市内の広域避難場所である大阪城公園は長居公園などと比べると水害に対しては著しく脆弱な地区と考えられる。避難拠点に必要な飲料水用耐震性貯水槽は整備されていない。

広域避難場所としての機能を中之島地区が十分に果たすためには、広域防災拠点整備事業等により、避難者を水害から守るための避難広場(人工地盤)を関係当局側で早期整備することが求められる。



大阪市防災マップ(H17)より

今後、持続可能な都市の構築には、環境負荷を可能な限り小さくすることが求められ、それは次の世代にむけての企業や市民の責任である。川に囲まれた都心部に位置し、積み重ねられた様々なストック、水辺や緑などの豊かな自然、様々な先端技術を持つ企業の集積などの恵まれた立地特性を持つ中之島地区は、持続可能な都市の構築において先導的な役割を果たし、広くその試みを発信すべきである。

環境負荷を小さくする試みとして、例えば、既存の建物やインフラストックのリノベーションによる有効活用、長い耐用年数・適切な管理運営を考慮したストックの新設、緑や水面の保全や新たな植樹・環境改善、省エネルギーを実現する冷暖房や交通システムの工夫、地区内廃棄物を減らす工夫・リサイクルの推進などがあげられ、具体的には次のような方策が実施されているが、さらに環境への配慮を重視し、「環境先進都市・中之島」を目指していきたい。

■ 河川水を利用した地区熱供給

中之島三丁目地区のダイビル(株)、関西電力(株)、関電不動産(株)の3社の共同開発において、未利用エネルギーである河川水を利用した地域冷暖房事業を進めている。

熱供給プラントを設置する新関電ビルはすでに完成し、今後、地区内の中之島ダイビルウエスト・イースト、隣接する中之島新線渡辺橋駅(仮称)への供給も検討されている。



■ 屋上・外構緑化、保水・透水性舗装の推進

公的建築物(市役所等)や民間開発による建築物において、積極的に屋上緑化、建物外装材への高反射仕上げ、光触媒の採用等を行っていく。

また、建物の外構における緑化の推進や、新設・既設の街路において、保水性・透水性舗装を採用し、地表面の高温化抑制を図る。

中之島公園を大改修し、花と緑豊かで水に親しめる空間を演出する。中之島地区内の街路の緑化、護岸壁面の緑化、オープンスペースのポケットパーク化等緑化を推進する。



■ 公共交通の充実

鉄道利用不便地域である中之島西部地区において、既存鉄道ネットワークに連絡する中之島新線を整備することにより、自動車交通から鉄道への転換を促進する。

また、島内及び島外を結ぶ交通として、鉄道に加え、舟運や自転車利用など、短時間移動のみでなく楽しみながら移動する選択肢の充実を図る。また、自動車交通から鉄道への転換と同時に、より環境に配慮した道路空間の活用を関係機関に提案する。



■ 歴史的建築物ストックの再利用

中之島には、その歴史を映し出す近代建築が多く存在していたが、老朽化が進み建て替えて進んでいる。その中で、中央公会堂のリノベーションは建物の再利用の代表的な事例であり、多くの市民に利用されている。

歴史的建築物は中之島の価値を高めることに貢献するが、その維持には大変な労力がかかる。再利用のための様々な工夫が望まれる。



中之島のまちづくり理念

目指すべき都市ビジョンの形成

——水都大阪のシンボルアイランド《環境先進都市・中之島》——

水都大阪のシンボルアイランド「中之島」のビジョン作りは、この地区の将来像として「どのような街であるべきか」を地区内の企業市民や関係者が意見交換をしながら自ら描き、そのビジョンをこの地区の街づくりにかかわる全ての関係者の共通認識として共有することを目指している。

それぞれの地権者がそれぞれの時期に、それぞれの事業をこの中之島で展開するとしても、その根底に共通するこの街の都市ビジョンが優れたものであれば、中之島はどこまでも優れた未来のある街として一貫性のある発展を遂げていく。

「中之島まちみらい協議会」として、この地区の都市ビジョンを自ら策定し、地区内・地区外の関係者間に強く打ち出すことは、今後の街づくりのあらゆる活動において関係者のコンセンサス作りに大きく寄与することとなり、極めて意義深いものである。

大阪市の都心部に位置し、堂島川と土佐堀川に囲まれた中之島地区は国内有数の大企業等が立地する中枢業務地区であるとともに、国際会議場や美術館・ホテル・公園等の立地による大阪の新しい国際的な文化・交流機能の集積地区を目指し、平成14年7月には都市再生緊急整備地域にも指定されている。

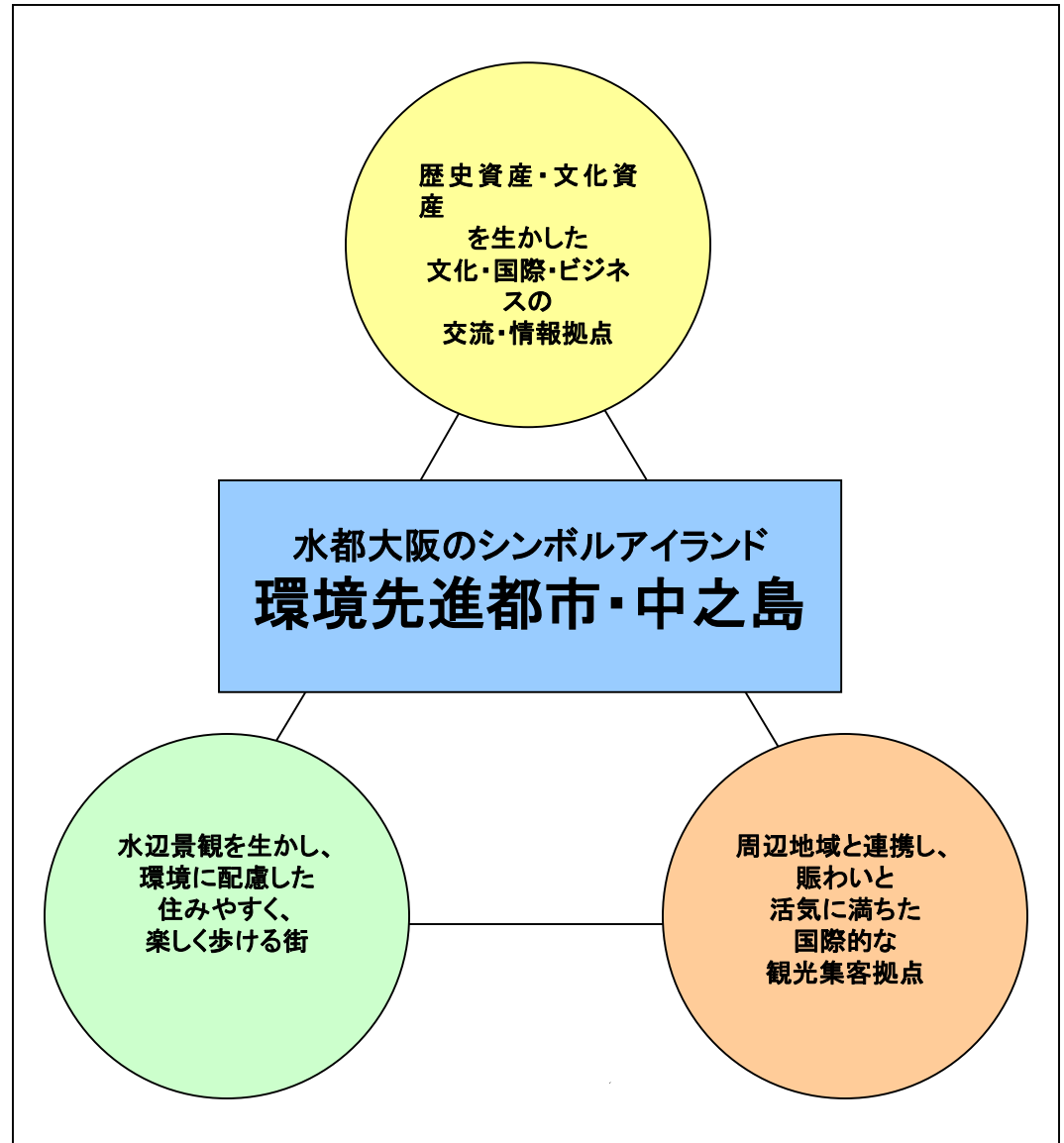
このような立地特性と社会資本整備の動向から、中之島は水辺景観の美しさを生かした文化・国際・ビジネスの交流・情報拠点として進化させていくことが重要との認識が関係者間で培われてきている。

前章で整備の方向性として挙げた水系の景観向上、都心居住への仕組みづくり、文化施設の早期整備、歩行者ネットワークなどの都市基盤整備、光のまちづくりなどのソフト面の充実等を踏まえ、当地区のまちづくりの理念を検討すると、その柱としては次の三つが掲げられる。

- ・水辺景観を生かし、環境に配慮した住みやすく楽しく歩ける街
- ・歴史資産・文化資産を生かした文化・国際・ビジネスの交流・情報拠点
- ・周辺地区と連携し、賑わいと活気に満ちた国際的な観光集客拠点

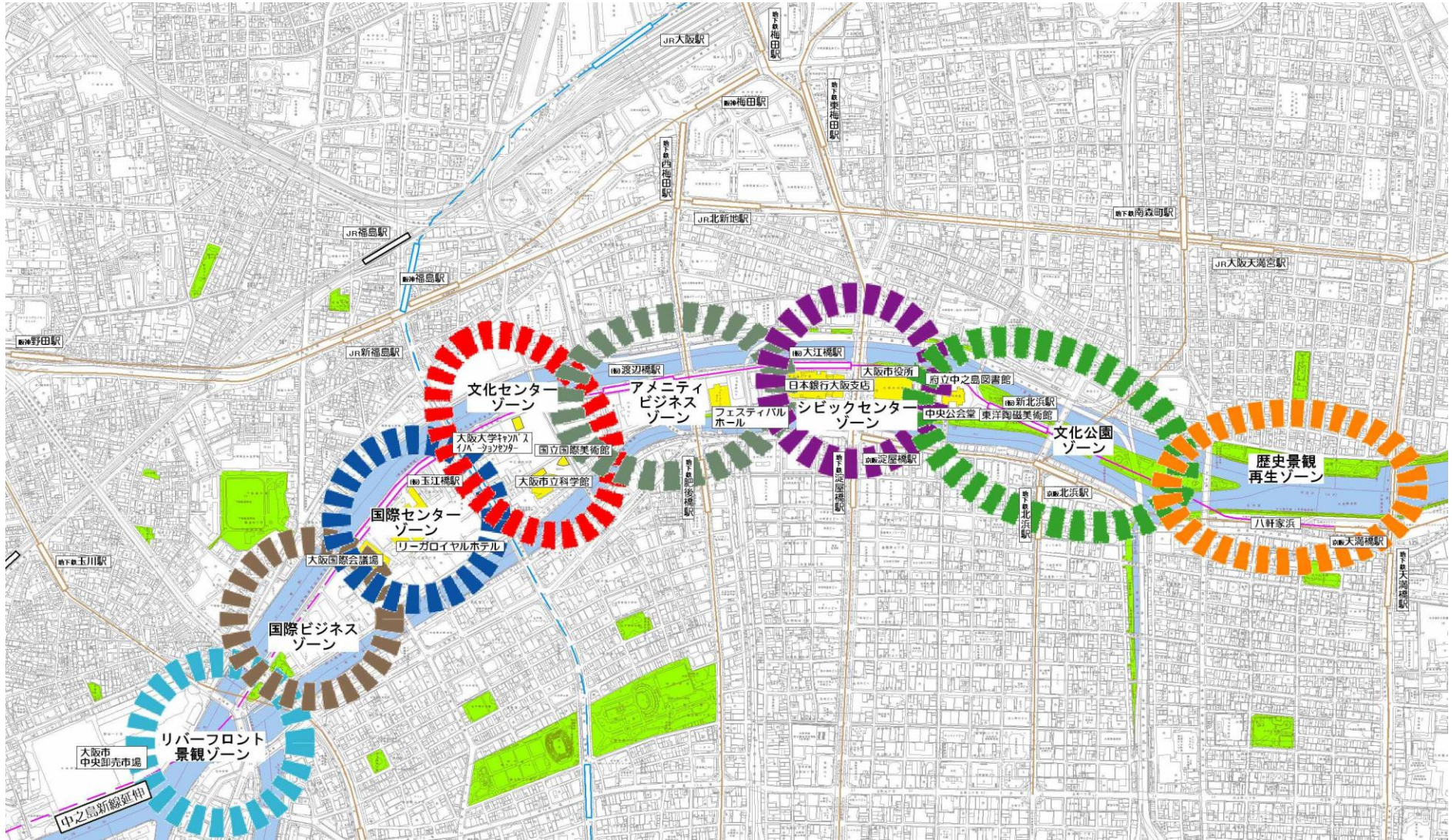
これらの理念を掲げ、関係者が協調して地区の計画と運営を強力に推進することにより、水都大阪のシンボルアイランドとして、新しい時代の《環境先進都市・中之島》を創っていくことが「中之島まちみらい協議会」の中心テーマと考えられる。

中之島のまちづくり理念



中之島及び周辺地区に存在する様々な機能を、2本の川、平成桜の通り抜け、歩行者ネットワークなどにより相互に連結する。

大阪市総合計画審議会による中之島西部地区のゾーニングをベースに八軒家浜から大阪市中央卸売市場までの中之島全体についてゾーニングを提案する。



文化センターリバーフロント整備(イメージ図)

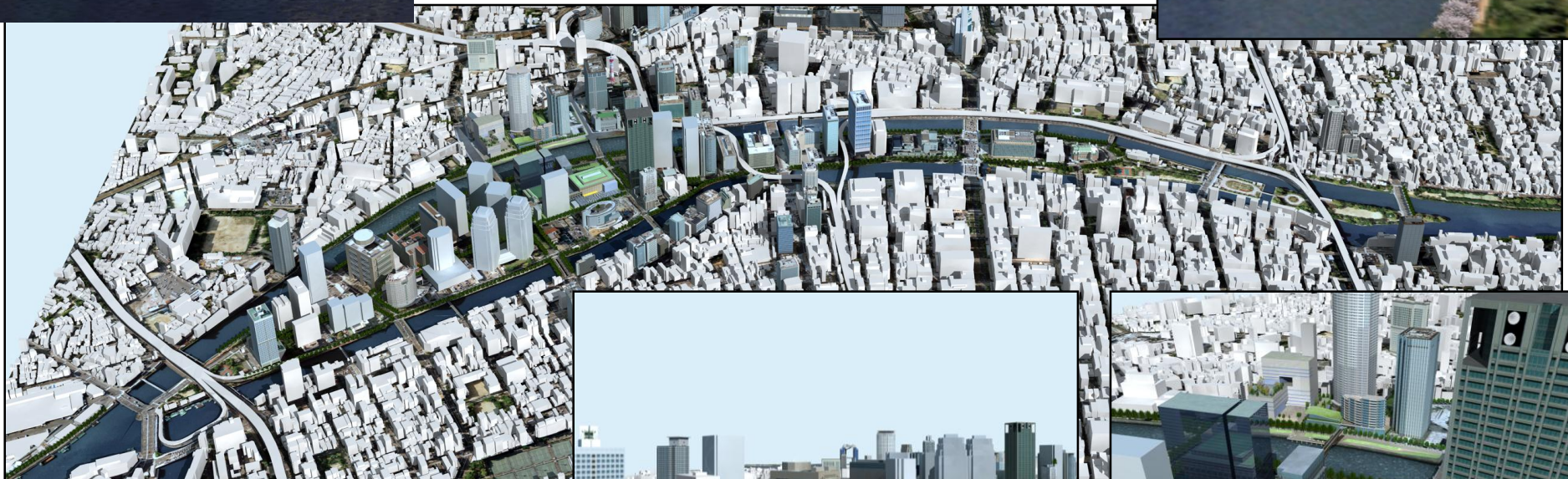


水都大阪のシンボルアイランド

「環境先進都市・中之島」

- ・緑や光など水系の景観を生かしたまちづくり
- ・環境に配慮した住みやすく、アメニティの高い街
- ・快適な歩行者空間ネットワークにより楽しく歩ける街
- ・歴史資産・文化資産を生かした多彩な文化振興拠点
- ・ユビキタス環境を生かした国際・ビジネスの交流・情報拠点
- ・賑わいと活気に満ちた国際的な観光集客拠点

歴史景観再生ゾーンの景観整備(イメージ図)



東西軸の景観向上(イメージ図)



中之島西部地区の整備促進(イメージ図)



中之島文化センターゾーンの整備促進(イメージ図)